

令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①論理的な思考力を養い、主体的・対話的で深い学びを実現する指導をする。 ②教育課程の実施状況を評価し、その改善を図る。 ③プログラミング教育を通して論理的に考え、自ら課題解決できる力を育成する。	①知識や技能の資質向上に繋がるＩＣＴ機器等を効果的に活用した学習活動を推進する。 ③「物事を論理的に考える」ことに重点を置き、生徒の能力を育成する。	①指導と評価の一体化、およびＩＣＴ機器の利活用を目指した職員研修を計画し推進していく。 ③情報機器を利活用しながら各教科の授業の中にプログラミング教育の要素を取り入れる。	①教科目標を踏まえて、ＩＣＴ機器を適切に活用し、生徒による授業評価の項目6・9が昨年を上回ることができたか。 ③「生徒による授業評価」のうち「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」の肯定的な回答の割合が昨年度を超えたか。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①生徒情報の全職員での共有化を、教育相談コーディネーターを中心としてはかり、教育相談体制を充実させる。 ②学業との両立に留意し、部活動の適切な運営に努める。	①生徒情報を全職員で共有し、担当学年以外の生徒に対しても適切な対応ができるようにする。 ②生徒とのコミュニケーションを活性化させ、生徒一人ひとりに配慮した指導・支援に努める。各部活動の顧問間での情報共有を徹底し、部ごとに活動の偏りが出ないよう留意する。	①生徒情報の共有化のために、生徒情報交換会を年に3回、職員会議とは別に設定し、時間を確保して開催する。 ②「部活動指導ガイドライン」に基づく適切な部活動運営を徹底し、生徒が明確な目的意識を持って取り組める環境を作る。部活動と学業の両立に関する調査を実施し、各顧問で共有することで部活動と学業のバランスを図る。	②生徒情報交換会が定期的に開催されたか。臨時のケース会議等が適切に開催されたか。 ②部活動総点検のアンケート調査で「目標や練習の目的を意識して、活動している」「部活動と勉強の両立」「部活動の状況に満足」それぞれの項目の結果が8割を超えたか。
3	進路指導・支援	①生徒が主体的に進路を開拓できるような仕掛けをし、変化の早い社会に柔軟に対応できるような能力を育む。 ②生徒自ら進路について考えるための情報を、教員が生徒より先回りして支援できるような、進路に関する教員のスキルアップをめざす。	①生徒が自主的に学習に取り組むようにするためのキャリア教育に関する講演会や、コンテンツの有効利用を促すための手立てをこぎずる。 ②年内入試や、総合型選抜に関する情報を職員で共有し、生徒に発信できるようにする。	①通常の授業を重視つつ、生徒の学習に対するコンテンツの利用実践例や利用方法を提示し個々の能力・意欲に応じて主体的に学習に取り組めるようにする。 ②大学で拡大しつつある総合型入試に関する情報を収集し、必要に応じて説明会を実施し職員間での共通理解を図り、生徒に還元する。	①生徒の学習に関するコンテンツ利用頻度が上がったか。 ②多様な入試制度に対する生徒・保護者の理解度をあげて、3学年の三者面談の時には、個々の進路計画を立てることができたか。
4	地域等との協働	①様々な場面で地域及び外部機関と連携した教育活動を展開し、生徒の学びを深める。 ②防災意識を高める機会を提供し、地域に信頼される学校作りを推進し、地域に貢献する。	①PTA と協力して講演会などを開催し、生徒及び保護者に情報を提供する。 ②地域や関係機関と連携し防災教育を行う。	①保護者や生徒のニーズを踏まえ、講義内容や講師を決定する。 ②防災訓練を2回設定し、地域住民の参加を促す。	①内容理解に関するアンケートを行い、おおむね肯定的な回答を得ることができたか。 ②防災訓練を2回実施することができたか。また実践的な内容になっていたか。
5	学校管理 学校運営	①教職員の働き方改革を推進し、会議の効率化をはかる。 ②業務についてはダブルチェックを行い、不祥事防止に努める。	②業務についてはダブルチェックを行い、不祥事防止に努める。	②成績処理、進路業務、入学者選抜等において、作業内容を全職員で確認するとともに、ダブルチェックを徹底して事故防止に努める。	②マニュアルについて情報共有をおこなうとともにダブルチェックを徹底して、事故を未然に防ぐことができたか。